

# 戸嶋正夫先生



剛毅、清廉の師

池野 和夫(新2回)

私は昭和一九年四月旧制岩手中学に入学、二五年三月新制岩手高校卒業だから、戸嶋先生には六年間教わったことになる。

入学式の折、一三〇名ぐらいの新入生を前に、その氏名を一人ずつ一気に読み上げる軍服姿の一人の教師の姿があった。その凛として淀みなく読み上げる先生の姿勢をみて、ああ小学校とは違うんだなと、緊張感を覚えたことを印象深く記憶している。その軍服姿が戸嶋先生だった。

母校へ県内のどこよりも早く昭和二年にはじめてラグビーを導入したのは広島英雄先生で、この方がいわば戸嶋先生の恩師である。広島先生が岩手中学に赴任したのは昭和二年春で、日体(後の日体大)を卒業したばかりの血気盛んな教師だったようだ。

この年の秋初代校長鈴木卓苗先生の意向もあって、10ヶのラグビーボールを購入し、正課体育にラグビーをとり入れたと聞く。

昭和三年に岩手公園広場で学級対抗試合を

行い、これが県内初のラグビーの試合とされているが、このとき生徒の戸嶋先生はF・Bだった。

私達は一年の五月校庭でクラブ分けがあり、体格のいい者はラグビー部に入ったが、私の場合、城南小学校卒は殆ど自動的に水泳部に入るのが普通で、それに従った。

その後同級生の佐々木宏平(故人)と戦後二〇年の六月頃、ラグビーのボールで遊んでいて、いつの頃からかラグビー部に入ってしまった。

二一年には岩手県ラグビーフットボール協会が設立され、戸嶋先生は理事長に就任している。その設立記念試合というのが岩手医専グラウンドで行われたが、二一年の一〇月には戦後初の東北の中学のラグビー大会があり、われわれ岩中ラグビー部は秋田工業学校との試合のため、米を持参で一六名が遠征することになった。

私はまだ背も小さく補欠、荷物の見張番ということとで建物の二階から見ているだけで、佐藤進さんの弟光祐がF・B、35対0で負けた。

グラウンドは畑のようにポコポコしていた。このためか戸嶋先生はその頃、ガラガラ石の校庭でタックル練習を盛んにさせた。本気のタックルをしない同年の村松正雄等は随分叱られたものである。

昭和二二年は私は旧制中学四年生だったが、体育の授業では戸嶋先生からラグビーの歴史と精神を学んだ。その講義は英国スピリットを十分に教え込もうというものだった。二二

年の頃からが、本格的なラグビーの技を学ぶ練習が重ねられ、それ以前は遊ばせているようなものだったと思う。

その後、家にグローブがある者は持って来いということ、課外で野球をやりはじめた。佐々木芳彦(新2回)、関根淳一(新2回)等が野球をするようになった。あるいは戸嶋先生の脳裏にはやがて来る野球ブームについての先見性があったのかも知れない。

昭和二三年に新制高校に変わり、内丸の女子師範の校庭で高体連の開会式があり、部費二万円で作った慶応スタイルのラグビーのユニフォームを着て行進した。

昭和二四年に第二回高体連があり、黒沢尻工業のグラウンドで岩手高校は試合することになった。北上の菊池旅館が高体連の本部だったが、岩高生だけはなぜかそこに泊った。

平素は毅然としていた戸嶋先生だったが、やはり生徒を可愛いがる気持がそうさせたのかも知れない。

当時の戸嶋先生は大正二年生まれだから三五、六歳の働き盛り、正に頼もしい先生だった。随分厳しい先生だったと生徒だった誰もがいうが、私は体育の点数は九二点から九五点で通した。

昭和二四年は県内ではラグビー試合は相手皆〇点に押えたが、その年の秋、仙台で国体出場をかけた秋田工業との試合で、五〇対三で負けてしまった。

戸嶋先生は怒りとショックを隠せず、一月中旬に全国大会の予選もあったが、その東北大会にも出場を許さなかった。

昭和三〇年には野球部の小武方信一(新5回)・田中義男(新8回)達が積年の夢を結んで甲子園に進む。

ラグビー、水泳、アイスホッケーは岩中以来の伝統で強いとされていたが、一方では時代は変わりつつあった。

私はかつて佐々木孝平、村松正雄、藤根義慶等と同席の場所で、戸嶋先生に「野球部を作れば、他の部の力は弱くなる」と真剣に話したことがある。

生徒数が多くないところで、生徒の体位の層が厚くなければそれは当然と思っていたからである。

戸嶋先生は「バカヤロウ、全般のレベルを上げるのが学校教育である」と一喝、「お前達は何を言うか」と我々を叱った。

たしかに教育者の道を歩んで来られた先生の頭にはすでにそういう確かな信念が生まれていたのかも知れないし、戦後の学校教育が変わったのも事実だったと思う。

剛毅一徹の戸嶋先生はその後円熟味を増していった。

昭和三四、三五年にラグビーで盛岡工業とせり合って後輩達が負けたが、そのとき私は戸嶋先生の頬に涙がたつたって流れるのを見て、私は深い感慨に沈んだ。

県下の高校に、体育では岩高に戸嶋ありといわれ、長年に亘って高体連理事長の任にあつた先生は清廉潔白、その気骨と覇気を永遠に失うことなかれと私たちに教えて下さったように思う。